

飯能市観光ビジョン



平成28年8月

目 次

策定にあたって	1
これまでの飯能市の観光（経緯）	
これまでの達成状況と今後の課題	
新たな観光ビジョンの必要性	
新たな観光ビジョン	2
新たな観光の進め方	
新たな「観光はんのう」のビジョン	
キャッチフレーズ	
「観光ビジョン」5つの目標	
目標1：交流人口480万人をめざします（目標年度：平成37年度）	
目標2：体験型・着地型観光にステップアップします	
目標3：地域の稼ぐ力を醸成し、地方創生につなげます	
目標4：グローバルな視点と戦略で取り組みます	
目標5：観光地としてふさわしい質的向上を図ります	
基本施策	4
基本施策1 「観光はんのう」の魅力向上	4
視点① 都市回廊空間を核とした新たな魅力づくり	
視点② ナンバー・ワンの水辺空間の構築	
視点③ 街歩き観光の推進	
視点④ 山間地域の観光施策の推進	
視点⑤ 飯能フードツーリズムの形成	
視点⑥ インバウンド事業の推進	
基本施策2 体験型・着地型観光の推進	6
視点① エコツアープログラムの更なる展開	
視点② 「観光お宝」の発掘に向けた連携強化	
基本施策3 ICT（情報通信技術）等を活用した誘客の促進	8
視点① 飯能ご当地アプリの活用	
視点② 多様な情報発信媒体の活用	
視点③ プロモーションや広告などを活用した効果的な情報発信	

基本施策4 観光地としてのレベルアップ	9
視点① 歩いて楽しめる空間づくりの推進	
視点② 観光アメニティの向上	
視点③ 既存情報の見直しと充実	
基本施策5 観光を担う人材育成と広域連携	10
視点① 持続的な観光に向けた人材育成	
視点② 市民の参加意識やおもてなし感の醸成	
視点③ 地域間や観光関係団体間の交流や広域的連携の促進	
観光ビジョンの共有	11
地方創生に向けた新しい「観光はんのう」について	12



策定にあたって

◆ これまでの飯能市の観光（経緯） ◆

本市は、自然、歴史、文化、イベント、グルメなど多様な観光資源を有していますが、その多様さゆえ観光の明確なイメージをつかみづらくしている面もあり、観光団体等が各種事業を行っているにも関わらず、観光地としてのイメージはどちらかという曖昧なものになっていました。

そのため、平成 23 年に市内の観光関連の団体や民間企業等からの意見を踏まえ、本市の観光の方向性を示し協働型の観光のまちづくりを推進する指針となる飯能市観光ビジョンを策定して、そのコンセプトである「歩いて楽しむ観光」を推し進めてきました。

◆ これまでの達成状況と今後の課題 ◆

本市は、平成 23 年に、観光振興に対する統一感の希薄さなどにより観光地としてのイメージが曖昧になっているという状況を踏まえ、「歩いて楽しむ観光」を基本コンセプトとして、協働型による観光のまちづくりを推進するための指針である飯能市観光ビジョンを策定しています。

本市の観光は、この基本コンセプトのもと、ハイキングコースや案内標識、観光公衆トイレなどの観光施設の整備を継続して行っており、市内に 19 のハイキングコース、42 箇所の観光公衆トイレを設置しています。また、観光施策の推進につきましては、飯能まつりなどのイベントの充実をはじめ、農林業や健康づくりとの連携した各種事業を行ってきたほか、飯能駅改札口横への観光案内所の設置や観光ツITTERの開設など、情報発信の強化にも取り組んできました。全国の先進地であるエコツーリズムにおいては、平成 25 年度にエコツーリズム推進全体構想の第 2 版を国から認定を頂き、平成 26 年度にはエコツーリズムの所管を環境部門から観光部門に変更し、観光振興の大きなツールと位置づけています。

このような状況から、本市の観光振興を更に進めていく上での課題として、①豊かな自然環境を有する本市の強みを生かし、多くの人に訴求する飯能らしい観光の核の構築、②情報通信技術（ICT）の活用を含め、誰もが気持ちよく過ごせ、本市の観光を十分に満喫できる観光施設等の整備、③本市を訪れる観光客の満足度を向上させ、訪れて良かった、また来てみたいと感じてもらうための、観光地としてのホスピタリティ（おもてなしや気遣いの心）の醸成、④民間事業者や商業振興と連携して経済的効果を更に高めていく、観光による地域の稼ぐ力の仕組みづくり、の 4 つが挙げられます。

◆ 新たな観光ビジョンの必要性 ◆

我が国の観光形態は、かつての団体で観光地を巡るものから、個人や家族単位による、体験や地域の人との交流を通じて心の豊かさを感じることでできるものへと変わりつつあります。これまでの本市の観光振興の経緯や現状の課題等を踏まえ、より多くの人々を魅了する本市の観光スタイルを構築し、多くの人々が訪れ市民との様々な交流が行われる、笑顔と活気のある都市を実現するため、地方創生の観点からも、マーケティングと戦略性に富んだ新たな観光ビジョンの策定が求められます。

新たな観光ビジョン

◆ 新たな観光の進め方 ◆

本市においては、平成25年3月に横浜市まで鉄道5社による相互直通運転が開始されたことや北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設（以下「メッツァ」という。）が宮沢湖周辺にオープンすることが決定したことにより、全国はもとより世界からも注目されています。

今後においては、多くの人を魅了する新しい観光地としての飯能を創出するため、新たな観光の核としてのメッツァを拠点とした都市回廊空間の魅力形成、外国人もターゲットに入れた観光情報の発信強化、既存観光ルートのネットワーク化や観光施設のレベルアップ、エコツーリズムの推進を基本施策とし、観光を産業とした新たな視点からの観光ビジョンを平成28年度から5年間として策定いたしました。

◆ 新たな「観光はんのう」のビジョン ◆

●飯能市の地域資源のネットワーク化を基調とした都市回廊空間を形成し、広く都心や海外の人々にその魅力を認識してもらい、メッツァとの連携やエコツーリズムを通して、観光関係者、市民、行政が一体となった新たな観光のまちづくりを進め、これまでのイベントを中心とした観光から体験型・着地型観光へのステップアップを図り、産業としての観光の形成という戦略性を重視した新しい「観光はんのう」のビジョンを掲げ、交流人口の倍増による市の活性化や経済好循環などにより地方創生をめざします。

※体験型・着地型観光とは、観光客の受け入れ先が地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する新しい観光の形態。主に都会にある出発地の旅行会社が企画して参加者を目的地へ連れて行く従来の「発地型観光」と比べて、地域の振興につながると期待されている。

◆ キャッチフレーズ ◆

観光ビジョンの達成に向けたキャッチフレーズを次のとおり設定し、観光事業に関連する多様な主体が総力を挙げて取り組みます。

生まれ変わります 観光はんとう

観光イノベーションで、魅力ある体験型・着地型観光へ

◆ 「観光ビジョン」 5つの目標 ◆

目標1： 交流人口480万人をめざします（目標年度：平成37年度）

宮沢湖畔の「北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設 Mets ä（メツツァ）」との一体感と相乗効果を高め、その魅力を積極的・広域的に発信するなど訴求することにより、240万人の交流人口を480万人にします。

目標2： 体験型・着地型観光にステップアップします

本市の豊かな自然などの地域資源を生かした地元によるプログラム企画とその持続的な実施により、これまでのイベント中心の観光から、観光客と地域との出会いを提供する新しい観光の形態へのステップアップを図ります。

目標3： 地域の稼ぐ力を醸成し、地方創生につなげます

多くの人々が本市の魅力を感じ、気軽に体験・観光に訪れ、地元の人たちとの豊かな交流を通して、本市の活性化と経済好循環による地域の稼ぐ力を醸成することで、本市の地方創生につなげます。

目標4： グローバルな視点と戦略で取り組みます

訪日外国人の増加に着目し、日本の身近な生活文化や日本らしい原風景が感じられる本市の森林や里地里山の風景などを通して、本市の魅力のアピールと提供に努めるとともに、ICT導入による観光客の情報通信環境の向上を図り、訪日外国人の観光ニーズに応えます。

目標5： 観光地としてふさわしい質的向上を図ります

観光地としての印象に大きく作用する観光全般に係るインフラの質的

向上とともに、体験・行動における快適さ、充実感など安全性に配慮しつつ観光地としてのレベルアップを図り、観光客の満足度の向上に努めます。

基本施策

基本施策1 「観光はんのう」の魅力向上

本市は、都心に近く、多様で豊かな自然環境は、市民誰もが誇りと愛着を感じる貴重な財産であり、この特徴を最大限に活用した「観光はんのう」を推進することが求められています。本市の観光資源の魅力を高めて観光のまちづくりを進めていくために、地域資源を活用した魅力アップにつながる事業を進めます。

視点① 都市回廊空間を核とした新たな魅力づくり

市街地を取り囲むように点在する本市の代表的な地域資源である宮沢湖のメッツァ、飯能河原・天覧山周辺エリア、あけぼの子ども森公園をつなぐ「都市回廊空間」を新たに創造し、観光の核として新たな魅力を最大限に活用するため、天覧山・多峯主山周辺において、市民や観光客が安心できる居心地の良い環境の整備を行います。あわせて市ホームページ、飯能アプリやタウン誌などにより、利便性の高い情報の発信に積極的に努めます。

【具体的な施策】

- ・都市回廊を感じる空間やコースの設定と環境整備
- ・山頂からの眺望確保などの整備
- ・史跡や文化財等のブラッシュアップによる「癒し空間」の創造
- ・エリア情報の流通・発信強化 など

視点② ナンバー・ワンの水辺空間の構築

水辺には、流れの清涼感や躍動感など人に働きかける情感機能、釣りや水遊び、散歩などの遊び場機能、様々な生物を育む生態機能など多様な機能を有しており、このような水の持つ様々な機能と表情が総体として水辺の魅力を形成しています。

本市においては、市街地を取り囲む豊かな丘陵地帯とそこを流れる清らかな水と豊かな緑という身近な自然環境が特徴となっていることを活かし、吾妻峡から割岩橋付近までのエリアにおいて、水辺の有する多くの癒し機能を念頭に置いた水辺デザインのもと、県内でナンバー・ワンの水辺空間を構築します。

【具体的な施策】

- ・河川空間のオープン利用化による飯能河原周辺の整備
- ・民間活力によるイベントの誘致と情報発信の強化
- ・吾妻峡～飯能河原散策ルート of 構築 など



吾妻峡

視点③ 街歩き観光の推進

観光のまちづくりを進めて行く上で、新たな観光の核である都市回廊空間の波及効果を、中心市街地での賑わいに結びつけていくことが必要になってきます。そのため、中心市街地の様々な回遊ルートに誘導し、街なかの回遊性や滞在時間の向上を図るほか、特別な観光案内所や観光ボランティアガイド、まちなかフリーWi-Fiの設置等により快適性のレベルアップや新たな雇用の創出を図ります。

【具体的な施策】

- ・歴史的資源、産業や食などをテーマとした回遊ルートの構築
- ・まちなかフリーWi-Fiの設置
- ・スタンプラリーやアニメ（ヤマノススメ）の活用
- ・ウエルカム飯能ガイド（仮称）の仕組みづくり
- ・飯能おもてなし週間の設置 など



ヤマノススメ

視点④ 山間地域の観光施策の推進

本市の山間地域の豊かな自然環境、暮らし、食分野などは、市内外の観光客を魅了する資源です。地域に息づいている伝統行事を観光資源として活用するとともに、森林が持つ効果を踏まえ、健康づくりと連携した事業展開について研究を進め、観光による山間地域の活性化をめざします。

【具体的な施策】

- ・山グルメの開発
- ・山間各地域の獅子舞についての情報発信の強化
- ・サイクリング客への対応強化
- ・森林が持つ癒し効果の研究
- ・じゃがいも・のらぼう街道事業の推進
- ・山間各地区関係団体との連携
- ・さわらびの湯との連携強化 など



下名栗諏訪神社獅子舞

視点⑤ 飯能フードツーリズムの形成

全国各地で、地域の食を観光資源としてそのエリアを活性化しようとする動きが活発化しているところから、「食文化の体験」の機会を作りながら「地域」をアピールしていくフードツーリズムが注目を集めています。本市の食文化や埼玉S級グルメ、B級グルメ、バーベキューなど観光資源となりうる「食」と本市の健康づくり施策の柱であるウォーキングや野菜プロジェクトとのコラボを「飯能フードツーリズム」と位置づけ、観光と健康づくりから消費の拡大と賑わいの創出につなげます。

【具体的な施策】

- ・飯能フードツーリズム 食べて、歩いて健康マップ（仮称）の作成
- ・バーベキューの聖地化に向けた取り組みの実施
- ・飯能ジビエの確立に向けた研究検討
- ・野菜や果樹を活用した取り組み など



武州飯能うどん

視点⑥ インバウンド事業の推進

訪日外国人旅行者が増加する中、東アジアをメインターゲットとして、都心からのアクセスの利便性や日本の原風景である「里地里山」の環境を活かしたインバウンド観光客の拡大に向け、外国人観光客の目線とニーズに立ち、満足感と安心感のある観光のメニュー構築と受入体制の整備を進めます。

【具体的な施策】

- ・訪日外国人のニーズによる観光メニューの構築
- ・外国語観光パンフレットの作成
- ・多言語看板の設置の推進
- ・多言語による情報発信の推進
- ・観光案内板（デジタルサイネージ）の整備に向けた検討
- ・ビジットジャパン地方連携事業 など



多言語観光案内看板

基本施策2 体験型・着地型観光の推進

近年の国内旅行において、体験型や着地型と呼ばれる新たな観光コンセプトに注目が集まっています。美しい景観や観光施設だけでなく、その土地ならではの歴史や文化の体験や体感に、新鮮な感動を求めるようになってきていることが背景にあります。

まさに、観光のまちづくりを、「すべての地域と人の参加」を基本方針とした飯能モデルのエコツアーの考え方を基本に展開し、「おいでよ飯能！行こうよ飯能へ！！」をめざします。

視点① エコツアープログラムの更なる展開

本市の観光スタイルを体験型・着地型にステップアップし、地域振興につなげていくためには、多様な興味や関心を持った参加者のニーズを満たしながら、高い参加満足度結果を得るエコツアーを中心に取り組んでいくことが必要です。飯能の魅力が思う存分感じられ、ツアーの趣向や視点など質の高い多彩なツアープログラムを積極的に企画・実施することにより、参加してみようと思う動機の高揚と市域全体への人の流れを創出します。

【具体的な施策】

- ・参加者が満足し、リピーター獲得につながるツアーの企画、実施
- ・ツアーの実施を地域振興につなげる仕組みづくりの検討
- ・公共交通機関の積極的な活用
- ・シティプロモーション事業との連携
- ・「飯能住まい」制度との連携
- ・関連イベントとのタイアップ など



エコツアーの様子

視点② 「観光お宝」の発掘に向けた連携強化

新たな観光はんのうを推進していくためには、来訪者にとって「飯能ならではの、地域ならではの」のユニークな体験やふれあいなどが得られることが最も重要です。地域に眠る、地域の方々しか気づいていない「地域のお宝」にスポットライトをあて、それまで地元でも認知度が低かった資源が、全国的に注目される事例が各地で誕生しています。

豊かな自然と歴史ある地域資源の中から「地域の宝」を見出すことができるよう、その発掘と磨き上げに、市民や地元、事業者、大学などとの連携を強化して取り組みます。

【具体的な施策】

- ・地元からの情報提供
- ・地域イベントに関する情報収集
- ・市教育委員会等との連携強化
- ・芸能、芸術分野等との連携した取り組み など

基本施策3 ICT（情報通信技術）等を活用した誘客の促進

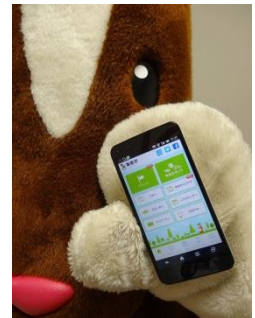
ICTは、行政をはじめとする様々な分野の情報発信や利用において、飛躍的な向上をもたらしています。今後、一層加速する高度情報化の中で、本市ならではの魅力の発信強化や拡大を進めていくためには、ICTの利活用がますます必要不可欠になってきています。

視点① 飯能ご当地アプリの活用

関係課と連携し、スマートフォンやタブレットなどで利用できる飯能ご当地アプリにより観光情報の取得性や発信力を強化しながら、市の様々な魅力を市内外の多くの人たちに向け発信し、観光ニーズへの対応と訪れたいまちの実現をめざします。

【具体的な施策】

- ・エコツアーや各種イベント、伝統行事等の情報発信の強化
- ・飯能ご当地アプリのPR強化
- ・飯能ご当地アプリの観光メニューの拡充 など



視点② 多様な情報発信媒体の活用

既存の情報ツールの強化を行うとともに、情報の量・質・鮮度を踏まえた観光客への的確な情報提供は、もてなしの向上にもつながるところから、必要なときに、いつでも、どこにいてもきめ細かに観光情報の入手が可能な利便性のある環境の実現をめざして、ICTによる新しい情報提供手法について検討します。

【具体的な施策】

- ・観光ツイッターの強化
- ・SNSやインスタグラムなどの研究
- ・フリーWi-Fiによる発信環境の整備
- ・デジタルサイネージの整備検討 など

視点③ プロモーションや広告などを活用した効果的な情報発信

テレビや新聞などのメディアに積極的な情報提供を行うとともに、民間企業や都市間交流自治体等と連携しながら、対象者や市場（マーケット）を意識した効果的な情報発信を行います。

【具体的な施策】

- ・ふるさと納税制度のPR強化
- ・都市間交流事業などによる情報発信の強化
- ・鉄道会社やバス会社などの公共交通機関と連携した情報発信の強化
- ・民間企業と連携した情報発信の強化
- ・情報、プロモーションの仕方や内容の質的向上 など



飯能市・横浜市中区友好交流事業

基本施策4 観光地としてのレベルアップ

観光地の印象を左右するものは、優れた観光資源だけではなく、街の佇まいや雰囲気、ワクワク感などが重要な要素であり、使いやすいきれいなトイレや休憩所の場所などもその印象に影響してきます。観光地としてのレベルアップを図るため、観光客の行動に伴う利用場所や体験の質を高めると同時に、従来からの観光素材のさらなる磨き上げを行い、リピーターの獲得につなげます。

視点① 歩いて楽しめる空間づくりの推進

都市回廊空間の創造と併せて、誰もが歩きたくなり、歩いて楽しめるまちをめざして、天覧山、飯能河原周辺、メッツァ、あけぼの子ども森公園や市内の寺社、ハイキング道（散歩道）などをネットワーク化して散策ルートの設定を行うとともに、地元グルメなどの食を活かして来訪者に楽しんでもらえる取り組みを行います。

【具体的な施策】

- ・天覧山、飯能河原エリア周辺の散策路のリニューアル
- ・飯能駅～宮沢湖周辺散策ルートのリニューアル
- ・飯能駅～あけぼの子ども森公園周辺への散策ルートの整備
- ・萩の里づくり事業の推進
- ・観光案内板（デジタルサイネージ）、フリーWi-Fiの整備に向けた検討 など



あけぼの子ども森公園

視点② 観光アメニティの向上

観光公衆トイレの対策は、観光客の誘致に必要不可欠のひとつであり、サービス水準の善し悪しを示すバロメーターとも言われています。初めて飯能を訪れた方にも、安心して、気持ちよく、快適に観光を満喫していただき、感動を与えられるような観光施設の維持管理やサービスの充実・向上を図ります。

【具体的な施策】

- ・観光案内所の機能強化
- ・観光公衆トイレ満足度の向上
- ・ハイキング道や道標の整備
- ・オープントイレ（トイレ提供）制度の研究
- ・協働による観光施設の維持管理及び美化に向けた研究 など



飯能駅南口観光公衆トイレ

視点③ 既存情報の見直しと充実

定期的に発信している情報の見直しを行い、観光情報の充実と最新化を図ります。

【具体的な施策】

- ・ホームページの定期的な更新
- ・観光パンフレットのリニューアル
- ・旬な観光情報の発信強化
- ・対象者を意識した情報内容の見直し など

基本施策5 観光を担う人材育成と広域連携

新しい「観光はんのう」を推進していくためには、観光活動の核となる団体や人材が必要となります。街中の散策ガイドや新しい観光資源の発掘など、様々な面で市民の力が必要となるため、質の高い観光施策を実施、展開するための観光ボランティアなどの人材育成や発掘に取り組みます。観光振興を図っていくうえで、飯能を訪れてみたいという気持ちを誘導する魅力づくり、来訪者がおもてなしや気遣いの心を感じられるような環境や風土を醸成していくことも重要です。

また近年、観光客のニーズは一層多様化し、その行動範囲も広域化しています。本市の観光資源の個性や独自性に配慮しつつ、埼玉県西部地区の多様な観光資源との連携による広域的な観光推進体制の整備に向けた検討を進めます。

視点① 持続的な観光に向けた人材育成

新たな観光スタイルへステップアップし、このスタイルを持続的により多くの市民が関わる裾野の広いものにしていくためには、市民ガイドや活動団体などの主体的・精力的に活動する人材の確保と次代を担う人材育成が必要不可欠です。これからの体験型・着地型観光に必要な知識の取得や技術の向上のため、定期的な勉強会や講習会を開催し、幅広く人材育成と人材確保に向けた取り組みを行います。

【具体的な施策】

- ・各種講習会等の開催と機会の拡充
- ・市民への出前講座の実施
- ・人材データベースの整備 など

視点② 市民の参加意識やおもてなし感の醸成

訪れた人を温かく迎え入れる市民の存在は優れた観光地としての重要な要素になっています。市民一人ひとりの誇りと愛着によるおもてなしや気遣いの意識を育て、観光関係者、市民、行政が一体となり、来訪者へ楽しさや満足感の提供に取り組みます。

【具体的な施策】

- ・観光おもてなし市民運動推進組織（市民もてなしクラブ）の構築 など

視点③ 地域間や観光関係団体間の交流や広域的連携の促進

更なる観光の振興に向け、飯能の個性や個々や特長に配慮しつつも、個々や地域での事業を交流や連携により市域全域に広げていくとともに、近隣市や都市間交流都市等との広域的な観光ネットワークの構築を進めます。

【具体的な施策】

- ・川越市、所沢市、日高市等と連携した周遊コースの検討
- ・SAITAMA プラチナルートとの連携に向けた検討
- ・飯能版 DMO の研究 など



観光ビジョンの共有

時代のニーズを捉え、イベント型観光から体験型・着地型観光へとステップアップを図る新しい「観光はんのう」のビジョンにより、交流人口を倍増していくためには、観光関係者、市民、行政が一体となった体制による観光のまちづくりの推進が必要であり、そのためにはこの観光ビジョンを多くの市民、関係者、団体等が共有することが必要不可欠です。

地方創生に向けた新しい「観光はんのう」について

本市では、「飯能市人口ビジョン」を踏まえ、実情に応じた今後 5 年間のまち・ひと・しごと創生に関する目標や施策の基本的方向、具体的な施策を定めた飯能市地域創生プログラム 飯能市まち・ひと・しごと創生総合戦略 を策定しており、特に重点的に取り組むべき施策として、観光振興や賑わい創出が位置付けられています。

地方創生の実現からも、多くの人を魅了する新しい「観光はんのう」を創出するため、既存イベントの充実や観光施設のレベルアップを行いながら、メツアと連携した都市回廊空間の構築やエコツアープログラムの更なる展開を進め、体験型・着地型観光へのステップアップを図り、産業としての観光という視点から観光のまちづくりを、観光関係者、市民、行政が一体となった体制により進めます。





飯能市イメージキャラクター
「夢馬（むーま）」

飯能市観光ビジョン

飯能市産業環境部 観光・エコツーリズム推進課
〒357-8501 埼玉県飯能市大字双柳1番地の1
電話 042-973-2111（代表）
FAX 042-974-6737
E-MAIL kanko@city.hanno.lg.jp
市ホームページ <http://www.city.hanno.saitama.jp/>